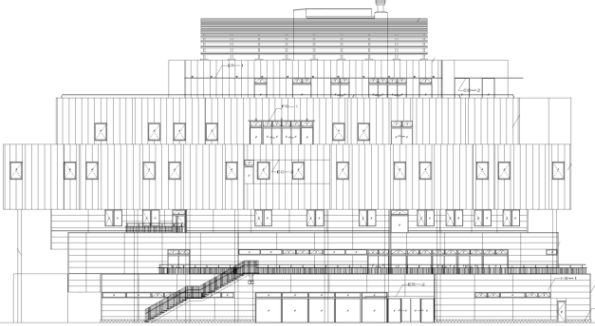


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	社会医療法人社団 高野会 高野病院	階数	地上6F		
建設地	熊本県熊本市中央区大江三丁目6-1	構造	S造		
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,020 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年8月28日		
敷地面積	12,120 m ²	作成者	共同建築設計事務所+コンテンツ		
建築面積	3,611 m ²	確認日	-		
延床面積	14,761 m ²	確認者	-		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

100

50

0

3.0

1.5

BEE=1.0

環境品質 Q

環境負荷 L

S

A

B⁺

B⁻

C

38

1.6

36

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆

BEE = 1.6

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

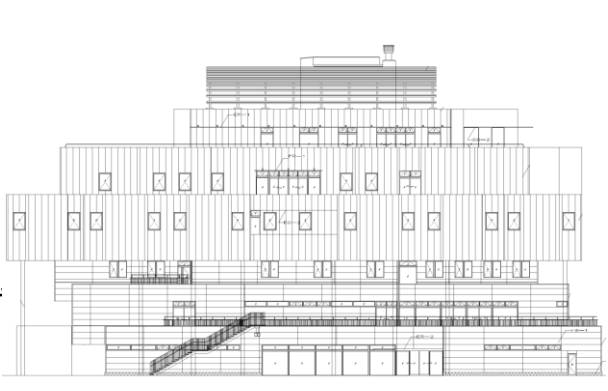
92%

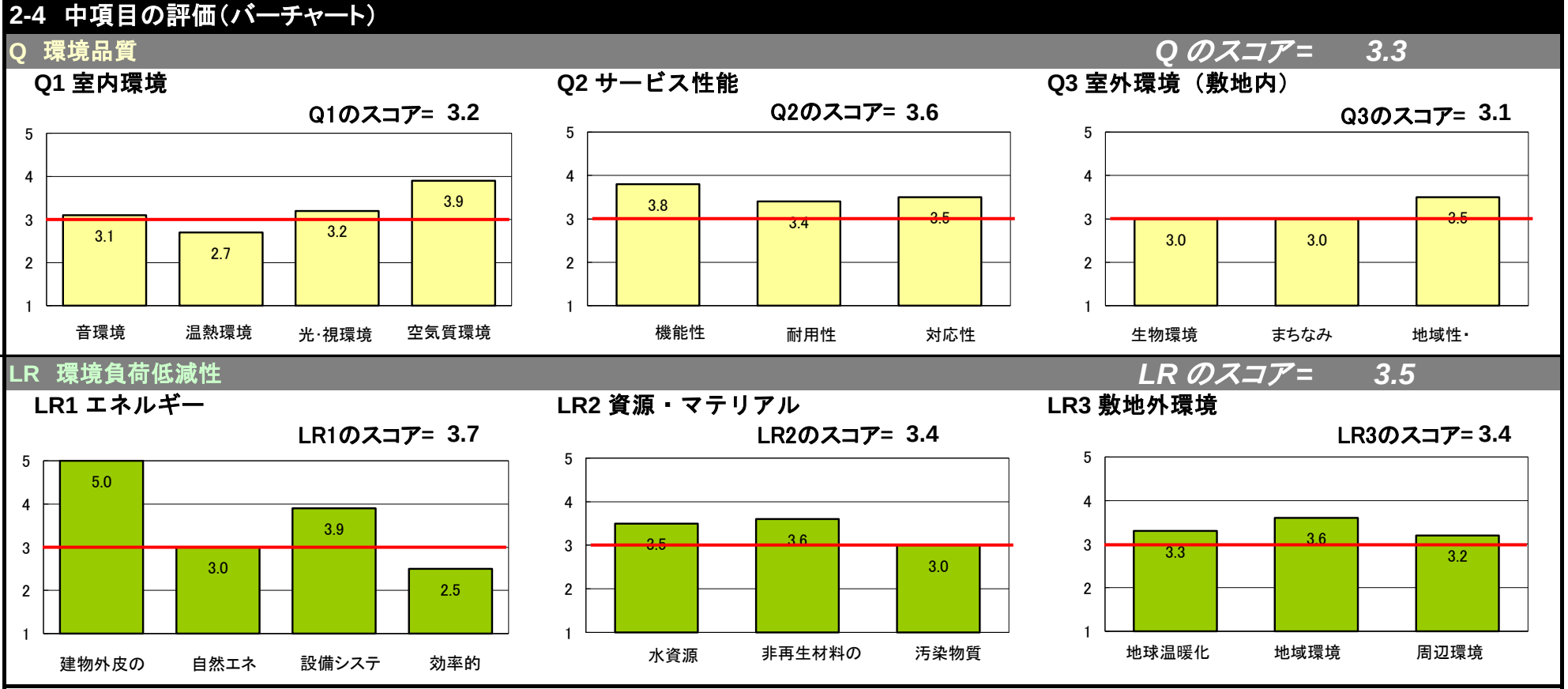
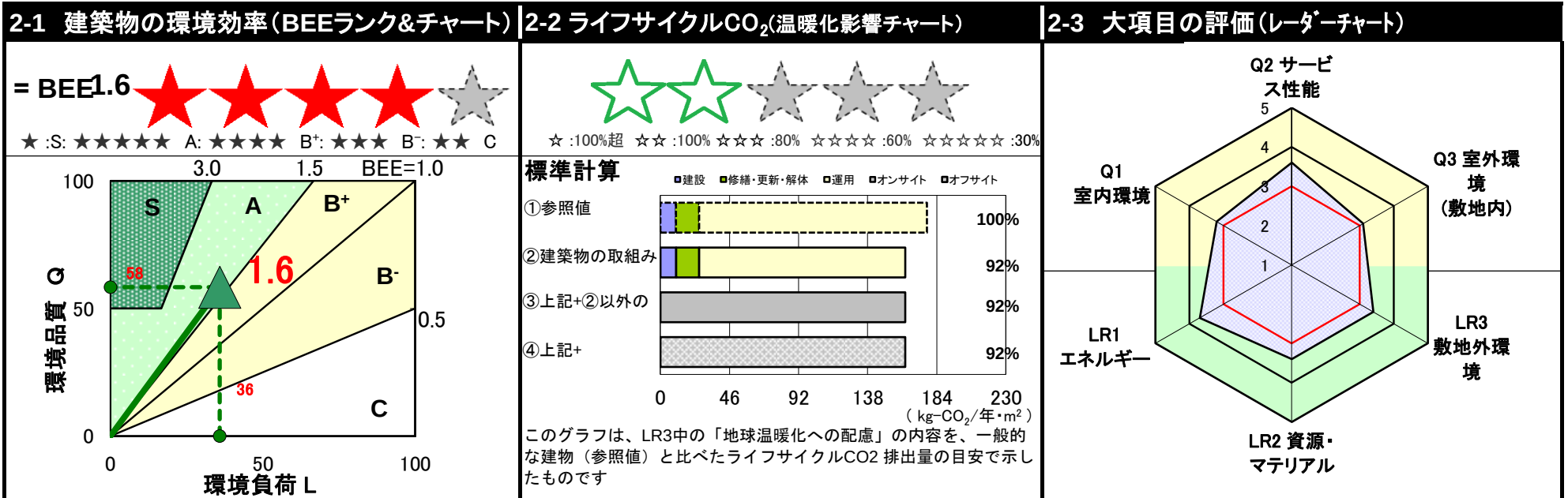
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価			評価点
			84
	評価点	■熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	86.9	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	81.2	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	89.4	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	社会医療法人社団 高野会 高野病	階数		
建設地	熊本県熊本市中央区大江三丁目6-3	構造		
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	病院	評価の段階		
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日		
敷地面積	12,120 m ²	作成者		
建築面積	3,611 m ²	確認日	-	
延床面積	14,761 m ²	確認者	-	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版			■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版						
社会医療法人社団 高野会 高野病院 新築工事			■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)						
スコアシート 実施設計段階			欄に数値またはコメントを記入						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境						0.40		-	3.2
1 音環境					3.0	0.15	3.4	1.00	3.1
1.1 騒音			専) 病室: 一般病室内許容騒音レベル35dB		3.0	0.40	5.0	0.40	
1.2 遮音					3.2	0.40	3.0	0.40	
1			共) 専) T-2以上確保		5.0	0.40	5.0	0.30	
2					2.0	0.60	3.0	0.30	
3					-	-	1.0	0.20	
4					-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音					3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境					2.7	0.35	2.8	1.00	2.7
2.1 室温制御			複層ガラスを採用、屋根・外壁に断熱材		3.2	0.50	3.4	0.50	
1					3.0	0.38	3.0	0.57	
2					4.0	0.25	4.0	0.43	
3					3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境					3.2	0.25	3.5	1.00	3.2
3.1 昼光利用			専) 4階4床室: 1.25%		3.0	0.30	4.2	0.30	
1					3.0	0.60	5.0	0.60	
2					-	-	-	-	
3					3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策					2.0	0.30	3.0	0.30	
1					2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御			共) 1作業単位かつリモコン制御、専) 病室: ベッド単位制御		5.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境					3.9	0.25	4.1	1.00	3.9
4.1 発生源対策			F☆☆☆☆建材を全面的に使用		4.0	0.50	4.0	0.63	
1					4.0	1.00	4.0	1.00	
2					-	-	-	-	
4.2 換気					3.0	0.30	4.3	0.38	
1			専) 病室: 床面積の1/10以上確保		3.0	0.50	3.0	0.33	
2					-	-	5.0	0.33	
3					3.0	0.50	5.0	0.33	
4.3 運用管理			専) 病室: 給気と排気の場所をわけている		5.0	0.20	-	-	
1					-	-	-	-	
2					5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.6
1 機能性					3.7	0.40	4.8	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ			個室10㎡/床以上かつ多床室8㎡/床以上		3.0	0.40	5.0	0.60	
1					-	-	5.0	1.00	
2					-	-	-	-	
2				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性					5.0	0.30	4.5	0.40	
1			専) 病室: 天井高2.5m		-	-	4.0	0.50	
2					-	-	-	-	
3			建物全体コンセプトや機能が明確であり事前に検証している		5.0	1.00	5.0	0.50	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1			便所: 壁・床に防汚性建材を採用、風除室扉: 十分な離隔等		4.0	0.50	-	-	
2					3.0	0.50	-	-	
3					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震			基礎免震構造		3.4	0.50	-	-	
1					3.0	0.80	-	-	
2					5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30	-	-	
1			塩ビシート20年、ビニルクロス(下地共)20年		3.0	0.20	-	-	
2					2.0	0.20	-	-	
3					5.0	0.10	-	-	
4					3.0	0.10	-	-	
5				上位3種-給水(C)汚水排水/雑排水(B)で、Eは不使用		5.0	0.20	-	-
6						3.0	0.20	-	-

	2.4 信頼性		非常用発電、無停電電源等設備を備えている 耐震クラスA 光・メタルケーブル等通信の多様化、精密機器を地上階に設置	3.6	0.20	-	-		
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		4.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		4.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		4.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性			3.6	0.30	3.1	1.00	3.5		
	3.1 空間のゆとり		共)階高3.9m以上、専)階高3.7m以上3.9m未満 共)1階：壁長さ比率=0.17、専)主要病室：壁長さ比率=0.53	4.6	0.30	3.2	0.50		
	1	階高のゆとり		5.0	0.60	4.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1		
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0		
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5		
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-			
	3.2 敷地内温熱環境の向上		4.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5		
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7		
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.90	3.9	0.50	-	3.9		
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		LED照明や効率化設備を採用	3.9	1.00	-	-		
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-			
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5		
	集合住宅以外の評価		中央監視装置を設置	2.5	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング		4.0	0.50	-	-		
	4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価			-	-	-	-		
	4.1	モニタリング		-	-	-	-		
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4		
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5		
	1.1 節水		自動水栓や節水型便器を積極的に採用	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無		4.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6		
	2.1 材料使用量の削減		- ビニル系床材、集成材、フローリング等 内装：乾式工法で分別が容易	2.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
	1	消火剤		-	-	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
	LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-		3.4
1 地球温暖化への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3		
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6		
	2.1 大気汚染防止		アメダスデータにより風向等を把握、植栽により日陰を創出等 市の基準に即しゴミ量を推計、有価物の計画的な回収計画等	3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善			4.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制		5.0	0.25	-	-		
	3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-		3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		光害チェックリストの過半を満たす	3.0	0.40	-	-		
	1	騒音		3.0	1.00	-	-		
	2	振動		-	-	-	-		
	3	悪臭		-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-		
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

「くまもとアトリス」テーマである「自然に開き人と和（わ）す」の理念を具現化するため、新病院南側に緑地・遊歩道、建物上層部に屋上ガーデンを設けることで、地上・周辺地域から、緑豊かな風景となるよう配慮している。また、屋上自動散水による日射熱負荷低減、自然エネルギーの地中熱を利用し通年15℃の熱ポンプと外気温の差を冬期暖房及び夏期冷房に活用、良質な熊本の地下水を飲料、医療用、洗浄水として活用等を計画している。

Q1 室内環境

全面的にF☆☆☆☆の材料を使用することや適切な換気計画とすることで、空気質室内環境に配慮している。また、建物を全館禁煙としている。

Q2 サービス性能

耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。また、事前に内装計画の検証を行い、建物利用者の快適な居室環境に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

空調設備の屋外機や受変電設備を建築物の屋上部分に計画することにより、景観及び敷地内歩行者空間等の暑熱環境に配慮している。また、前面道路との境界からセットバックした建物配置とし、街路空間にゆとりをもたせ、南側道路沿いに可能な限り植栽を施すことで、周辺環境に配慮した計画としている。

LR1 エネルギー

外壁・屋根の断熱や複層窓等により外皮性能を向上させると共に、LED照明等により設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。

LR2 資源・マテリアル

節水型器具の採用、雑排水の利用及び特定調達品目を利用をすること等により、資源の保護に配慮している。

LR3 敷地外環境

ゴミ減量化計画（市）の取組みやゴミの分別及び有価物の計画的な回収等の計画により、廃棄物の発生抑制に配慮している。「光害対策ガイドライン」チェックリストを基に、光害抑制に配慮している。

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 社会医療法人社団 高野会 高野病院 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.9	0.40	34.76
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.1	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				81.2	0.20	16.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				89.4	0.20	17.88
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数